



研修便り



高知市教育研究所教職員研修班

平成26年2月17日発行 No.41

「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

平成25年度 高知市研究協力校研究発表会「小規模校教育」 高知市立行川小中学校 研究主題「自ら課題に取り組み、ともに学び合う児童生徒の育成」

行川小中学校における具体的方策



1 小中一貫教育の推進

- (1) 4・3・2制を意識した指導
- (2) 「めざす子どもの姿」の共有
- (3) 各教科・領域の学習の系統性を見直し
- (4) 地域の自然・人・文化等の特色をいかした交流や体験的活動

I 期 小1～小4

繰り返しによる
基礎・基本の定着

II 期 小5～中1

小学校から中学校
へのスムーズな移行

III 期 中2・中3

社会で自立して生
きていく基礎づくり

I 期～III 期を通して

- 乗り入れ授業・専科授業の実施
- 小中縦割り班での清掃活動
- 小中合同の行事や体験活動の実施

2 学習意欲の向上と確かな学力の定着を図る学習指導

小学校での取組例

- ・ 複式授業を要とした授業改善
- ・ 「一人学び」「とも学び」の手引きを作成して活用

中学校での取組例

- ・ 授業づくり10のポイントの共有化
- ・ 「Self Time」の設定 ・ 学習カルテの活用



研究発表会での様子

3 自己肯定感の高揚とコミュニケーション力の育成

4 教育相談・特別支援教育

5 保護者・地域との連携 (コミュニティ・スクールとして信頼される学校)



講演「小中一貫教育で子どもをのばす ～呉中央学園の取り組みから～」

講師 二宮 肇美 先生(広島県呉市立呉中央中学校教頭)

小・中学校での文化の違いを正しく理解して、
課題を共有することから始まります。

取組の一例

☆学習指導案を小・中
一緒に作成・検討

☆小学校のプリントを中学校でも
宿題や授業前に活用

☆6年生すごい！中学生すごい！
と思わせる場の設定



「小中一貫教育」を目的としな
いで、小・中学校のよさを9年間
で広げることが大切！

9年間の子どもの学びと成長に
まると責任をもちましょう！

小中一貫教育で変わるもの

- 1 教職員の意識と授業力
- 2 児童生徒の意識と学力
- 3 保護者の意識と協力
- 4 学校と地域のかかわり

<参加者の感想>

- ・ 一人ひとりの学びが保障されたあたたかい授業だった。複式授業では教材研究が2倍になり大変だと思うが、授業の流れや学びの手引きなど丁寧な支援が役立っていた。また、児童会・生徒会の発表もとてもよかった。
- ・ 講演では小中一貫教育について、具体例も提示していただき分かりやすかった。小・中が言葉だけでなく寄り添うことが大切だと感じた。

対象：高知市立小・中・特別支援学校人権教育主任

概要

本年度、各校で実践した学習指導案を基にした課題別実践交流、実践概要及びその成果と課題並びに次年度に向けての支部別実践交流を行う。それらから、人権教育の基本方針や、人権教育推進上の諸課題に関する認識を深めるとともに、人権教育主任としての指導力の向上を図る。

説明 「高知市における人権教育推進上の成果と課題」

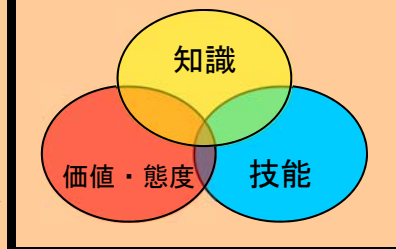
人権・こども支援課

【人権教育指導班長から】

人権教育の手法では、個別的な視点、普遍的な視点を融合することが大切です。それぞれには、知識的、価値的・態度的、技能的な部分がありますので、各学校の指導案を見ていただきながら、どのようにすれば、それらがうまく融合していくのかということ、しっかりと情報共有してください。

個別的支援から

同和問題
女性
子ども
高齢者
障害者
HIV感染者等
外国人
インターネット
性同一性障害



生命尊重・反差別・固定観念
自尊感情・多様性・法の理解

普遍的視点から

研修Ⅰ 「課題別実践交流」

【課題別グループ】

- ・ 同和問題
- ・ 障害者
- ・ いじめ
- ・ 外国人
- ・ 人権尊重
- ・ 子ども
- ・ 仲間づくり
- ・ 身の周りの差別
- ・ 生命、自尊感情
- ・ 平和学習

【交流事例】

- 近隣小・中学校との実践交流、授業参観、研修を通して共通理解をしている。
- 「名前について」の学習から、自分や友だちの名前を大切にするようになった。

【主な意見】

- 「差別は間違っている」と言える子どもを育てることが大切である。そのためには、私たちが正しいことを伝え、教えていく必要がある。
- 体験の少ない子どもたちには、さまざまな人と出会わせることが必要である。そのためにも、教材開発に全力を注いでいきたい。

研修Ⅱ 「支部別実践交流」

【共通認識した主な事項】

- 中学校に向けて学力をつけていくことも大切だが、子ども同士の学び合い、つながりを深めていくことも大切にしていく。
- 小・中学校それぞれの発達段階に合わせた学習が必要である。どの学年で、どの程度の学習をするのかを、より共通理解する必要がある。
- 人権学習の取組を地域の方々にも知らせ、広げていくことも必要である。



【受講者の感想】

- ・ 交流した授業案も、子どもの気付きや人権意識を揺さぶるような内容で、ぜひ実践したいと思った。
- ・ 各校の実態や実践事例を詳しく知ることができた。また、各校の課題については共通する点も多々あり、改めて人権教育の重要性を認識した。
- ・ 支部の取組について意見交換ができた。中学校として小学校でも取り組んでほしいことについて提案もできたので、それを踏まえて、中学校での計画を立てていきたい。